



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



城北生の変化

50回生 岡崎 修平

皆様、こんにちは。50回生の岡崎修平(お
かざきしゅうへい)と申します。
今回OB会報誌へ執筆させていただきました
機会をいただきましたとも光栄です。ありが
とございます。つたない文章ではあり
ますが一生懸命書きましたので目を通し
ていただけると幸いです。

最初に簡単に僕の事を説明します。僕
は広島生まれ広島育ちで小学校からのサ
ッカー少年です。中学から城北に入り6
年間男子だけの素晴らしい環境で過ご
させてもらいながらサッカーと勉強を両
立させるつもりで頑張り、現在東京の中
央大学商学部2年生として学校や親か
らの束縛に開放され活き活きと好きなこ
とをして過ごさせてもらっています。

今回そのような僕がOB会報誌のお話
をいただき、城北での思い出を振り返
る機会ができました。実際僕自身数々の経
験をしました。楽しい経験も辛い経験
も終わってみれば同期の友人と笑い話に
してしまいます。男子校というもあり城北
だからその面白く下衆な話題が話す中
で中心となつていますが、辛い事ですら
面白い話になるので辛い経験もするべき
だと思えます。僕の辛い経験としては
高校時、あるコーチ(通称兄貴)にルー
が一滴しかなくほとんどご飯のカレーを
食べさせられ、その後吐きそうになりな
がらめちやくちや走らされた事です。で
すがこれも今となつてはコーチとの間で
楽しい思い出話として連絡を取る際のネ
タになつています。思い出話は書くとき
りがないのでこれぐらいで終わらせてい
たくなります。

次に、大学から東京に出てきて学んだ
ことを書きたいと思えます。僕は東京に
約2年住んできていろいろな体験をして
きました。その中で大事だなと思ったこ
とが二つあります。この二つについて読
んでくださった皆様に何か少しでもプラ
スになれればと思います。その二つとは
「人」と「環境」です。僕は東京に出てき
て最初の1年間は単位を取るために勉強
し、サークルで楽しみ、バイトで金を稼
ぐといういわゆる一般的な大学生をやっ
てきました。しかし、その生活が勉強し
て部活に行つて過ごす高校生活とあまり
変わらなくつまらないと思ひ、自分は何
のために大学に行つていいのか分かりま
せん。中学から良い大学に入るこ
とが目標となつていた自分は大学に入っ
てから何の目標もなく気づけば1年間過
ごしてしまいました。そんな中、学生時代に



一般的な大学生とは全く違う人生を歩ん
だ人たちにお会いする機会が増え、僕の
知らない世界を知ることができました。
彼らは夢や目標、つまり欲望に対して従
順に着実に行動して僕から見ると輝い
た人生を歩んでいました。僕はそのよう
な人、環境に飛び込んで欲望のままに生
きてやろうと決意しました。欲望のまま
に生きるのと周りに言う「お前キモい」
とか「出来ないだろ」とか言われるかも
しれません。でも僕は欲望のままに生き
ているほうが素直だしカッコいいと思ひ
ますしチャレンジせずに生きるほうが楽
しいと思ひます。これを読んでもくださ
つている方もそう感じると思ひます。この
経験は個人的なものですが、人との出会
い、環境の変化が進みたい道が開けてき
ました。僕の主観ですが、城北生はある
程度裕福で親のおかげで良い環境で生き
ていると思ひます。ですが家庭環境が悪
く、中卒で働いているのにやりたいこと
して生きていくかっかしい同い年がいる
現実を僕は新たな出会い、環境のおかけ
で知りました。だから城北サッカー部で
言われてきた「感謝」が改めて身にしみ
て感じましたし、それも人と環境のおか
げで再認識しました。

最後に現役の城北生には応援してく
れる親、助けてくれる仲間感謝した上
で自分は将来どうなりたいのかを考へて
日々勉強したり部活したりして過ごして
ください。大事にしてると必ず結果もつ
てきます。僕も常にその気持ちをもつ
て一日一日を大事にします。最後まで目
を通してくださりありがとうございます。

私は現在、国士館大学に通っており、体育
学部の4年生になりました。部活はラクロス
部に所属しており、大学で新しいスポーツを
楽しみたい、保健体育の教員を目指し、日々
学び続けています。
大学の話はさておき、私がなぜ広島城北
中学校を受験したかという、中高6年間同
じチームでサッカーができ、結果も残してい
るサッカー部に魅力を感じたからです。そし
て、初めての中間テストが終わる、仮入部と
して練習に参加していたのですが、バレーボ
ール部の城根先生との出会いにより、急遽バ
レーボール部に入部しました。「全国大会出
場」という夢に向かって3年間頑張ってきた
のですが、借しくもあと一歩届きませんでした。
そして、中学校バレーボール部を引退し、
ふと思つたことがありました。それは、サッ
カーをせずに城北を卒業したら必ず後悔する
という思ひでした。同級生のサッカー部はと
ても仲が良く、いつでもどこでも楽しそうに
サッカーをしている姿が羨ましく、また、こ
の仲間たちなら自分を受け入れてくれるだろ
うと考え、高校からサッカー部に入部させて
いただきました。そして、念願の城北でのサ
ッカーはとても楽しく、充実した日々を送る
ことができました。選手としてはケガも多く、
思う存分サッカーをすることはできませんで
したが、広島城北サッカー部の一員として3
年間過ごせたことが何よりも嬉しいです。

広島城北サッカー部に感謝

48回生 丸本 英貴



私が大学に入部して一番思うことは、「親
のありがたみ」です。当たり前だと思ひがち
ですが、上京して一人暮らしをしていると親
のありがたさをより一層感じることが多いで
す。例えば、いつも当たり前のように食卓に並
ぶご飯、泥まみれだった練習着が綺麗に洗濯
されていること、例をあげたらきりがありま
せん。他にも、私は小学一年生からサッカー
をしていますが、毎週末行われる試合の送り
迎えや自分より朝早く起きて作ってくれる
お弁当など、今更ながら親の偉大さ、そして
ありがたさに気づきました。誰にでも思春期
という時期があり、自分のストレスや不満を
親にあて、時にはひどい言葉を発したり、反
発したりします。私自身にもそのような時期
がありました。しかし、今では親の助けがな
ければ一人では何もできないということをも
感謝しています。だからこそ後悔し、また心か
ら感謝しているのです。当然のことですが、
死ぬまで親の手を借り続けて生活していくこ
とは不可能なことです。だからこそ、今しつ
かりと自分を磨いて様々な経験を積み、将来
少しでも親孝行をしたいと思ひます。

初めまして。49回生の前田賢吾と申します。
私は現在、専修大学経済学部経済学科の二年
生です。
私が大学に入部して一番思うことは、「親
のありがたみ」です。当たり前だと思ひがち
ですが、上京して一人暮らしをしていると親
のありがたさをより一層感じることが多いで
す。例えば、いつも当たり前のように食卓に並
ぶご飯、泥まみれだった練習着が綺麗に洗濯
されていること、例をあげたらきりがありま
せん。他にも、私は小学一年生からサッカー
をしていますが、毎週末行われる試合の送り
迎えや自分より朝早く起きて作ってくれる
お弁当など、今更ながら親の偉大さ、そして
ありがたさに気づきました。誰にでも思春期
という時期があり、自分のストレスや不満を
親にあて、時にはひどい言葉を発したり、反
発したりします。私自身にもそのような時期
がありました。しかし、今では親の助けがな
ければ一人では何もできないということをも
感謝しています。だからこそ後悔し、また心か
ら感謝しているのです。当然のことですが、
死ぬまで親の手を借り続けて生活していくこ
とは不可能なことです。だからこそ、今しつ
かりと自分を磨いて様々な経験を積み、将来
少しでも親孝行をしたいと思ひます。

最上段で学んだこと

49回生 前田 賢吾

ました。指導教諭はなんと岩井先生でした。
学年主任である岩井先生の学年集会での迫力
には圧倒されました。いまだに私は岩井先生
を前にすると背筋が伸びます。また、実習中
は最上段に足を運び、高校サッカー部の練習
にも参加させていただきました。県総体でベ
スト8に進んだ次の日の練習は47回生の岡コ
ーチが主導で行うトレーニング、通称「岡ト
レ」の日でした。厳しい練習が続く中で「俺
らはベスト8のチームなんぞ!最後まで頑張
ろーや!」などといったチームを盛り上げる
声飛び交い、とても良い雰囲気でした。こ
のようにチームで一つとなり、「男結」して
強敵に挑んでいく広島城北サッカー部はとて
も魅力あるチームだと思います。
最後になりましたが、このような貴重な機
会をくださり感謝しております。私は来年か
ら広島に戻つて教員を目指すことを決意し、
残りの大学生活を一生懸命に頑張ります。

「残念!!」相手は、高校総体優勝チームの皆実高校。結果は0-15の完敗。高校総体「ベスト8」という結果。OBの皆様はどう思われますか?よくやったと思われる方、まだまだだなあと思われる方、次こそは頑張れと思われる方、色々ですが、選手自身はどうだったのか?

第一球技場には、たくさんOB(私19回生)の方々が応援に来られて気持ちの入った応援が送られてきました。この応援の仕方にも、チームカラーが出ています。応援にもマナーが必要です。流石、わが城北の応援は保護者の皆様が宮島のしやもじに城北のシールを貼り付けて(手製)、ルールを守って清しく応援されていました。この伝統は是非

広島に帰って来て感ごう

現役の人たちは、一日一日を大切に、後悔のない高校サッカーにしてください。また、多くの人たちの支えがあつて、今のようない環境でサッカーができることに感謝する気持ちを忘れないでください。

私も遠くからではありませんが、皆さんの活躍を応援しています。

拙い文章でしたが最後までお付き合いいただきありがとうございます。

広島城北高校サッカー部OB会長
19回生 吉川 英司



継承して頂きたく引継ぎをよろしくお願いいたします。

「保護者の皆様」

今大会は1回戦の呉港高校戦、2回戦の安芸南高校戦を観戦に行きました。率直な感想ですが初戦の呉港高校戦の出来では到底「ベスト8」まで進むとは全く想像も出来ないほどの内容だったと記憶しています。それが、2回戦の安芸南高校戦から現役選手の「勝ちたい」という気持ちがプレーに出始めたなあと感じるようになりました。

監督・スタッフがどの様に、チームを盛り上げる指示をしたのかは不明ですが、やはり「気持ち」がないと見ていても面白くありません。ただ、苦言を呈するとするならば、その安芸南戦は雨が降っており、コンディションは良くありませんでした。

ベンチ入りした選手は、その雨の中でもいつ試合に出ても良いように、アップしています。ところが、ベンチ入りできなかった他のメンバーは応援するの、傘をさしグラウンドに座って声掛け応援しているのです。この光景に違和感を憶えました。最近の体育会系はこんなものでしょうか?ここからは、私見です。試合に出れないメンバーも一丸となって同じ環境で応援出来るチームであって欲しいと願います。「雨に濡れようが濡れまいが」。是非、OBの皆様は、社会に入り色々な局面に出くわすと思いますが損得勘定だけでなく、したい、したくないではなくその場の全体の空気を

QPONのひとり言

城北再生

『勉強』と『クラブ』
『やらなければいけないこと』と『やりたいこと』
こんなフレーズが学校内で飛び交って久しくない。
『勉強をするので…』 何人かの生徒が退部する

これが正しいのか?
ここ2・3年、職員室内で息苦しくなる。
当然、『勉強』は必要であり大切である。
特に大学を目指す高校生には『勉強』が一番である。
そんなことをわかったうえでこう考える。

『勉強』は、われの問題
『クラブ』は、仲間との活動だと。
つまり
『勉強』と『クラブ』
『やらなければいけないこと』と『やりたいこと』
で比べるのではなく
『自分のこと』と『仲間との活動』
をくらべるのだろう。

でも城北では…って反論。
城北の一部しか見てないような人間が城北を語るな!
当然、俺も城北を自分の角度でしか見ていない。

ただ
俺が教えていただき学んだ城北は
病気の治療を遅らせ、生徒と全国を目指して命を落とした師との
『城北を勉強だけの学校にするな』
という最後の約束。

病から復活し定年のその日まで、
城北は“義理と人情”と語りつづけた
恩師からの
『生徒を一番に考えろ』
という教え。

2人が人生かけて築こうとした城北と
今の城北は…
もう一度
心ある温かい学校に!



宮本 誠 (19回生)

近況報告

みなさんこんにちは!
24回生の岩井竜彦です。

引き続き高山英樹先生(36回生)と一緒に、中学校サッカー部を担当しています。39歳の時に広島市スポーツ協会を退職し、広島城北学園で勤務するようになってから早くも8年目、今年は中学1年生の学年主任を仰せつかり、中学3年生の学年主任である黒瀬真造先生に教を請いながら、慌ただしく過ごさせていただいております。

今年から47回生の岡大樹君が、コーチとして最上段に帰ってきました。高校生はフィジカル面の強化を目的とした月曜日の「岡トレ」で鍛えてもらっています。私もかつて、恋蹴に行ける毎週火曜日、選手みんなにフィジカルトレーニングをやってもらってました。あれから何年たつんだらうと、ちょっと懐かしく感じています。

今年はこちらまで、高校生は広島県高校総体で、中学生は広島県選手権大会とともにベスト8進出と、まずまずの結果が続いています。

ですが、もちろん選手・スタッフともこの結果に満足することなく、より一層前向きに取り組んでいく所存です。

今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

広島城北高校サッカー部コーチ
岩井 竜彦 (24回生)